

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第12回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

All-in-one self-etch adhesives (ワンステップボンディング材)

Werner J. Finger

ケルン大学歯学部(ドイツ)

平成17年11月18日(金) 16:30 ~ 17:30
歯学部A1セミナー室(歯学部基礎棟1階)

抄録:

最初のセルフエッチングボンディング材は約10年以上前に導入され、日本の大学、メーカーがその発展に多大の貢献をし、象牙質に対する接着は殆ど達成されました。

初期のワンステップボンディング材は2~3つの組成で構成されていましたが、最近のいわゆるAll-in-one self-etch adhesiveは、酸性モノマー、プライマー、クロスリンクモノマー全てを1つの組成中に含んでおり、メーカーは短時間で処理でき、使い易く、非常に効果的であるといっています。

殆どのワンステップボンディング材は大規模なデータを有しておらず、長期臨床成績の報告も多くありません。本セミナーでは新しいワンステップボンディング材について、組成や、エナメル質・象牙質に対する接着性等を紹介します。

しかし一番お話ししたいのは、接着に影響を及ぼす臨床的観点からの適用法、処理法です。ワンステップボンディング材は非常に使い易いのですが、良好な長期臨床成績をおさめるためには、ある処理ステップにおいて細かい点まで注意を払うことが必要です。

今回は、インターフェイス口腔健康科学の3つのシステムの1つである生体材料のコンポジットレジンに関するシンポジウムです。最近のコンポジットレジンの進歩は著しく、特にその歯質接着性には目を見張るものがあります。接着させるための処理法も3ステップから1ステップへと簡略化されてきました。本セミナーでは最新のワンステップボンディング材について、組成、接着性、臨床使用上の注意点等についてお話し頂きます。

連絡先: 第12回モデレーター 小松 正志 (内線 8340)
研究推進企画室長 高田春比古 (内線 8305)
副研究科長 高橋 信博 (内線 8294)